

# DTXに装着できるコンパクトモジュールでOTDRを現場施工技術者に訴求

「DTX コンパクトOTDRモジュール」の投入で、「誰もが扱えるOTDR」を実現したフルーク・ネットワークス。今春予定の光ファイバー配線試験法のJIS規格化に伴い、啓蒙活動の一層の強化を図る。

フルーク・ネットワークスは2007年6月20日から、銅線用認証テスター「DTX ケーブルアナライザー」で光ファイバー用OTDR認証テストが実施できる「DTX コンパクトOTDRモジュール」を販売している。

OTDRとはOptical Time-Domain Reflectometerの略であり、光ファイバーケーブルにおいて、融着接合と光ファイバーコネクタの位置と損失をテストする測定機器のことだ。「光パルス試験機」とも呼ぶ。

営業アカウントマネジャーの高橋英治氏は「従来のOTDRは、サイズも大きく、光ファイバー配線に詳しい一部の技術者向けという位置付けだった。コンパクトなDTX コンパクトOTDRモジュールを投入することで、あらゆる現場施工技術者が扱えるようになることを狙った」と説明する。

DTX コンパクトOTDRモジュールは、DTXケーブルアナライザーの背部にある拡張ポートに装着して使用する。

4つの波長でシングルモード(SM)とマルチモード(MM)のファイバー反射測定のトレースと、その解析を行う。OTDRによる拡張ファイバー認証(ティア2認証)は、DTXファイバーモジュール



DTX コンパクトOTDRモジュール

ルによるベーシックファイバー認証(ティア1認証)機能を補完する。両認証機能を利用することで、DTXケーブルアナライザーは、光ファイバーとメタル配線のすべての規格に完全準拠するテストプラットフォームになる。

DTX OTDRモジュール装着後でも、1.35kgという超軽量ボディであるため、片手で持つことができ、容易な操作性を実現している。また測定結果は、DTXに標準添付されているテスト結果管理ツール「LinkWareソフトウェア」で簡単に管理できる。

DTX OTDRモジュールの価格は、88万円～(税別)となっている。

## 光配線試験法がJIS規格化

高橋マネジャーは「昨年10月以降、DTX OTDRモジュールの需要が急激に高まった。複数のデータセンターなどで、かなり大掛かりな光の工事があったことが影響したようだ」と明かす。「OTDRモジュール単体だけでなく、ファイバーモジュールとのバンドルキットもかなり出た」そうだ。また、従来のOTDRを最初に購入したユーザーがリプレース時期に来ていることも需要増に貢献しているようだ。

今年以降については、「光配線試験法のJIS規格化が伸長要因として期待できそうだ」という。06年にISO IEC JTC1/SC25 WG3 において「14763-3 Testing of optical fiber cabling(光ファイバー配線試験法)」の審議が完了。現在はJEITAの情報配線システム標準化専門委員会でJIS規格化に向けた審議を進めている。高橋マネジャーによると「昨年暮れで審議はほぼ終了しており、今春にはJIS規格として登場す

る見込み」だ。

これまで、光ファイバー配線のフィールド試験法を規定する規格はなかった。このことがOTDRを一部の施工技術者にしか扱えない機器にしていた。

14763-3には、OTDRを使用した測定方法も詳細に規定されている。JIS規格になって、きちんとした指針ができれば、OTDRは誰もが扱える機器になっていくだろう。ただ、「内容が広くて深いため、果たして現場施工技術者にどれくらい理解し、実行してもらえるかが我々の課題になる」という。フルーク・ネットワークスでは、JIS規格化に合わせて啓蒙活動を本格化させる予定だ。

また、OTDRはNTT系の通信工事では普及しているが、LAN工事ではまだまだ使われておらず、認知度も低い。このため、LAN施工技術者向けのOTDRセミナーを重点的に開催していく方針だ。「OTDRとは何か。使用するとどのようなメリットがあるのか。というように、基礎的なところから始めていきたい」という。

今後の製品展開だが、光ファイバー端面のクリーニングキットと端面用のスコープを投入する。14763-3のなかで、端面に付着したゴミの許容範囲とその確認方法も詳細に規定してあるからだ。

高橋マネジャーは「DTX コンパクトOTDRモジュールとこれらの新製品のPRと合わせ、光ファイバー配線試験法の啓蒙活動を積極的に実施していきたい」と語っている。

## お問い合わせ先

フルーク・ネットワークス  
TEL : 03-3434-0510  
E-mail : info@fluke.com